

AdS₅ 多様体と別次元の AdS₅ 素数と素粒子方程式

Masaaki Yamaguchi

$$e^{-2\pi||psi||}[\eta_{\mu\nu} + \hbar x]dx^\mu dx^\nu + T^2 d^2\psi \\ = e^{-f} + e^f = (u + d) + c, (w + s) + b = -e^{-f} + e^f$$

この式は、時空にどれだけの原子が凝縮しているかを表していて、その上に、この逆数は、密度エネルギーをも示している。空間の体積に原子を商代数にすると、濃度にもなる。逆数は、a=原子のエネルギー が全空間を 1 とすると $\frac{1}{x}$ すると、 $\frac{x}{y}$ は密度になる。 x=原子,y=全空間、個数は $\frac{y}{x}$

$$\square = \text{原子} \rightarrow \frac{[\eta_{\mu\nu} + \hbar(x)]dx^\mu dx^\nu}{e^{2\pi T||\psi||}}$$

$$||ds^2|| = e^{2\pi T||\psi||} ([\eta_{\mu\nu} + \hbar(x)]d^\mu dx^\nu)^{-1} + (T^2 d^2\psi)^{-1}$$

$$||ds^2|| = e^{-2\pi T||\psi||} [\eta_{\mu\nu} + \hbar(x)]d^\mu dx^\nu + T^2 d^2\psi$$

$$(u + d) + c = e^{-f} + e^f, (w + s) + b = e^{-f} + e^f$$

$$R'_{ij} = -R_{ij}$$

この AdS₅ 多様体の $e^{-2\pi T||\psi||}$ は原子間距離を表していて、 $[\eta + \bar{h}(x)]d^\mu dx^\nu$ で宇宙の D-brane の構造を表している。この数式が $T^2 d^2\psi$ とアーベル多様体が包み込んでいる。原子が回転するのと、ニュートンリングが回転する宇宙は同じ速さで回転する。

$$||ds^2|| = \square + \rho, ||ds^2|| = \nabla\Psi^2 + \psi$$

$$\eta_{\mu\nu} + \bar{h}(x)$$

$$\text{proximity} = \Delta x \Delta p - \Delta p \Delta x + \delta(p, x)$$

$$||ds^2|| = e^{-2\pi T||\psi||} + [\eta_{\mu\nu} + \bar{h}(x)]dx^{\mu\nu} + T^2 d^2\psi$$

$$\frac{d}{df}F = e^f + e^{-f}, \frac{d}{df}\int Cdx_m = e^f - e^{-f}$$

$$R'_{ij} = -R_{ij}$$

宇宙と異次元では0だが宇宙だけだと誤差が生じる。これが不確定性原理であり、異次元が誤差になり、宇宙と加群すると0になる。 $\delta(p, x)$ が隠れた変数となり、異次元で誤差をこの不確定性原理と表している。全ては素粒子方程式から生成される式達である。